

# 地域学校協働研修会

本研修会は、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動に関わる行政職員を対象に、教育委員会の学校教育課と社会教育課の連携の必要性について認識を高めるとともに、各市町村教育委員会の実態にあった一体的推進に関する体制整備の方策等について学ぶことで、今後の取組に向けての実践意欲の向上を図ることを目的に開催しました。管内のコミュニティ・スクールや地域学校協働活動に関わる54名が参加し、一緒に学びを深めました。

本研修会は、参加者主体の研修とするために、①「課題を把握する」→②「課題解決のために必要な情報収集を行う」→③「②で得た情報をもとに課題解決のための方策を考える」という順で進めました。

## <演習1> 課題の把握

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の現状について」  
同一市町村のメンバーでグループを編成し、学校、行政それぞれの立場から、自分たちの市町村の課題を把握し合い、その課題をもとに、問いを生み出しました。

## <質疑応答・講話>

課題解決のための情報収集

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を目指す体制整備に関する具体的な方策について」  
福岡教育大学 副学長・研究科長（文科省CSマイスター） 森 保之 氏

演習1で生まれた問をモニターに映しだし、会場全体で共有しながら森先生に助言をいただきました。  
参加者は、自転車の前輪を『学校運営協議会』、後輪を『地域学校協働活動』としたイメージ図をもとに、CSと地域学校協働活動の一体的推進の必要性について、理解を深めていました。また、活動内容以上に運営上の「ガバナンス」が大切であることや、活動のマンネリ化を防ぐためにも、学校運営協議会における熟議と「ビルド&スクラップ」の必要性、活動目的の共有の大切さ等、CSと地域学校協働活動の取組が進んでいる市町村やこれから進めるといふ市町村、双方の課題解決のための一助となるお話をさせていただきました。



## <演習2> 方策の検討

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の具体策について」

参加者は自分の市町村の課題解決に向けた方策について、熱心に話し合いを行っていました。CSと地域学校協働活動が進んでいる市町村では、活動のマンネリ化を防ぐために、再度、活動目標の共有が必要であること、CSや地域学校協働活動本部を今から立ち上げる（立ち上がったばかり）という市町村は、組織づくりや推進員の役割について等の議論を活発に行っていました。



参加者にとって本研修会は、自分達の市町村の課題を自分たちで模索する演習を通して、各市町村の実態にあった一体的推進に関する体制整備の方策等について学びを深めることができ、充実したものとなりました。

### 【参加者アンケートから】（抜粋）

- 教育委員会として学校が自走できる体制を作らなければならない。そのために、学校教育課、社会教育課、学校、地域が何をすべきか話し合う必要がある。学んだことを持ち帰り、校長をはじめ職員全体で共通理解を図っていききたい。
- どんな活動をしているかではなく、どうやって進めているかという「ガバナンス」が大事だということが分かった。
- 演習の時間は、自分たちの町が抱える課題を見つめ直す良い機会になった。
- CSと地域学校協働活動の役割がわかっていなかった。今回の研修を受け、学校でも再確認していきたい。